

こ 小ブケ遺跡（第4次）・石名田遺跡

その2

所在地：津市安濃町内多

調査期間：平成30年10月22日(月)～平成31年1月8日(火)

調査面積：約813㎡

発掘調査が終了しました！

昨年の10月より津市安濃町内多で調査をしておりました、小ブケ遺跡・石名田遺跡の発掘調査が終了しましたので、調査成果についてお知らせします。

小ブケ遺跡では、平安時代末から鎌倉時代の土坑や溝、掘立柱建物の柱穴などが見つかりました。調査では土師器や山茶碗など多くの遺物が出土しました。また、掘立柱建物の柱穴からは中国から輸入された白磁玉縁碗が出土しました。



掘立柱建物の柱穴は2.1m間隔でした。



柱穴から出土した中国産の白磁玉縁碗。



溝から出土した土師器鍋と山茶碗小皿。

12月になると小ブケ遺跡の西隣りにある石名田遺跡の調査に移りました。石名田遺跡では、古墳時代の溝や、平安時代から鎌倉時代の土坑や溝、掘立柱建物の柱穴などが見つかりました。石名田遺跡でも引き続き多くの遺物が出土し、中でも注目されるのは、平安時代の溝から、当時的高级品であった緑釉陶器の椀が複数点まとまって出土したことです。緑釉陶器がまとまって出土することは珍しく、この地域の歴史を考える上で重要な成果となりました。

現地での発掘調査は終了しましたが、これからは、出土した土器を洗浄し、バラバラになった破片を接合する作業を進め、さらに詳しく遺跡の性格について調べていきます。



見つかった深い溝。



多くの緑釉陶器がまとまって出土しました。

<問い合わせ先>

〒515-0325

三重県多気郡明和町竹川503

三重県埋蔵文化財センター 担当：水谷・中村

電話0596-52-1732

FAX0596-52-7035